野木小学校
同窓会報
第　29　号
平成31年1月
野木小学校同窓会編集部

## ご挨拶

第59回卒（昭和43年）
同窓会会長（堤）　井上秀司

第二十九号野木小学校同窓会報の発刊に当たりご挨拶申し上げます。

今年は、六月に大阪府北部地震が起き、七月には中国、四国、九州地方に甚大な被害をもたらした西日本豪雨、八月の末から九月末には台風二十号、二十一号、二十四号の列島襲来、九月六日の北海道地震、加えて、四十度を超えたこともあった連日の猛暑日、と自然の驚異をまざまざと感じさせられた年でした。当地野木地区でも、立て続けにやって来た二つの台風によって、家屋や農産物に多大の被害を受けました。倒れたり、渦を巻いたり悲惨な状態になった田んぼの稲、コンクリートの電柱が倒された道路、瓦が割れたり飛ばされたり、シャッターが壊された家などを数多く目にしました。被害に遭われた方々には心よりお見舞いを申し上げます。

そんな台風二十一号の通過から数日後、野木小学校前の県道を車で走っていると道路横の田んぼに子供たちの集団を発見しました。スピードを落としてよく見ると、台風でペタンと倒れてしまった稲を刈りとっている。雨水でぬかるんだ土に手足、顔、着ている運動着を汚されつつも、懸命に束ねた稲を運んでいました。本来、秋晴れの中での企画が常套だが、このような悪条件の中、ご苦労なことだなと思っていたが、ふと、「農作物は天候に左右される。」「雨だろうが風だろうが、今作業しないと作物がダメになってしまうのだ。」「農家の仕事って大変なんだよ。」その事を児童たちに感じ取ってもらいたくて、先生や地域応援隊の方々の判断で決行されたのかな、との思いが込み上げてきた。今回、いつもと違い、ぬかるみの泥にまみれ、身動き不自由な中でのこの収穫作業に携わった子供たちは、農業のむずかしさや、農家のみなさんの苦労を理解し、食物に対する感謝の気持ちを忘れない、優しい人に育って行ってくれるのだろうな。貴重な体験ができてよかったな。子供たちを見守り、導いてくださる先生や、地域のみなさんが居てくれて有難いなあ。そんな思いが頭を過っているうち、車は私の目的地、三方庁舎に到着しておりました。

最後に、今年も同窓会報発刊に当たり、寄稿をお願い致しましたところ、卒業生、あるいは野木小学校にゆかりのある方々が快くお引き受けくださいました。誠に有難い限りでございます。深く感謝申し上げます。今後とも、当会の事業その他にご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様をはじめ、全国至る所に居られるであろう野木小学校同窓生の方々の益々のご活躍と、ご健勝、ご多幸を祈念申し上げ挨拶と致します。

## 野木は心のふるさと

野木小学校 校長　渡邉奈緒美

野木小学校に勤めさせていただいて、二年目となりました。素直で心優しい子どもたちと過ごすことができてとても幸せです。

今年はしあわせ元気国体、障がい者スポーツ大会が開催されました。五十年ぶりの大会です。若狭町の正式種目はオープンウォータースイミングでした。町内の全小中学校の児童生徒が観戦し、応援しました。本校の子どもたちは、選手の皆さんが海の中ですいすい泳ぐ姿に驚きながらも、団扇を片手に一生懸命応援していました。知っている人でもなく、どこが一位かよくわからない状況の中、最後まで精一杯応援している姿を見て、すばらしいと思いました。野木っ子の良さがにじみでていました。めったにできないこの体験は、きっと、大人になっても心に残ることでしょう。

きれいな空と海の青。泳いでいる選手の皆さんと応援する子どもたち。このような情

景を見つめながら、ふと、五十年後の若狭町はどうなっているだろう、野木地区や野木小学校はどうなっているだろうと考えてしまいました。世の中はすごい勢いで変化しています。例えば、今では当たり前のスマートフォンですが、十年前の私はこんな便利なものが普通に使えるなんて想像もつきませんでした。このようにどんどん変わりゆく中で、幸せに生きていけるための力を子どもたちにつけることが大切です。そのために、学校ではいろいろな体験活動や学習活動の充実を図っていこうと思います。「不易流行」という言葉があります。新しいことを柔軟に受け止め自分の考えを変えていくことは大切なことですが、野木に誇りをもち大切にする心は、どこまでも変えてはいけない本質です。

野木小学校は地域に支えられた素晴らしい学校です。創立以来の歴史もあります。同窓会の皆様、地域の皆様、今後ともご支援とご協力をどうかよろしくお願いいたします。

## 旧職員からの便り

# 輝きのある野木の子

（平成19年度～23年度）

三宅直美

野木小同窓会報の原稿依頼を頂き、正直遠慮もあったのですが、思い出が多く、私の大好きな野木小学校の関係者の皆さんとまた繋がることができると思うとうれしい気持ちもあったので、恥ずかしながらお受けしました。

野木小学校での思い出といえば、劇が大好きで、六年生を送る会や敬老会には、オリジナルの劇をたくさんやったなあ、体育大会の一輪車の発表は、失敗を繰り返しながらもみんな必死になって練習したなあ、カラオケ大会も楽しかったなあなど、感動の場面がいくつも蘇ってきます。他にも、陸上記録会や音楽会では、決して人数は多くないけれど、どこにも負けない成果をあげることができました。教室内の学習だけでなく、校外学習にもたくさん出かけました。米作りやハウスでの野菜作り、大豆を育てての豆腐を作りなど体験学習もたくさんさせて頂きました。トマト栽培の見学に行ったときなどは、たらふくトマトを食べさせて頂きました。いろんなことを思い出す時、きらきら笑顔の子どもたちとともに、その保護者の方やおじいちゃんおばあちゃん、地域の方々の顔がいっぱい浮かんできます。「先生も大変やなあ」と声をかけて下さり、どんなことにも好意的に協力して下さり、たくさんお世話になりました。今でも、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

野木小の子どもたちは、本当に素直で子どもらしく、どんなことにも一生懸命に取り組む頑張り屋さんです。そして、それぞれ個性豊かで伸び伸びしています。それは、この地域の中で見守られ、愛情いっぱいに育てられているからこそであることを改めて感じます。体育館に掲げられた大きな看板「輝きのある野木の子」には、そんな地域の方々の思いがいっぱい詰まっているように思います。そして看板のように、いやそれ以上に子どもたちが大きく成長していっています。そんな野木小学校に勤務できたことは私の宝物となっています。私は、今でも野木小の前の道を通って看板が目に入ると、温かさと頼もしさを感じ、懐かしくうれしい気持ちになります。そして、ここで育った子どもたちが、これから先さらにどんな風に成長していくかが、楽しみでなりません。これからも野木の子たちの成長を陰ながら応援しております。

## 旧職員からの便り

# 大切な思い出

（平成10年度～16年度）

藤井　美智代

私が野木小学校に赴任したのは、今から二十年も前の平成十年でした。しかし、野木小学校で過ごした日々は、今も色あせることなく、鮮明に思い出されます。

昨年の三月に、嬉しい連絡が舞い込んできました。それは、同窓会の案内で、当時、三年、四年の二年間を担任していた教え子からの電話でした。短い時間でしたが、彼女がこの十年間で大人として大きな成長を遂げたことを感じさせる時間でした。電話を切った後、彼らと過ごした楽しい思い出が次々と甦ってきました。

彼らには、『一人でできなくても、みんなで頑張れば何でもできる。』そんな体験をさせたくて、当時、色々なことに取り組みました。その中には、「一輪車大作戦」「あじさいマラソン大作戦」などがあります。最初は、学級の子ども同士のトラブルもありましたが、同じ目標に向かって活動することを通して、学級が徐々にまとまっていきました。

この学級で忘れられない出来事の一つに、町陸上記録会の「女子リレー」があります。練習のときから入賞を目指せるタイムを出していたので、みんなの期待を背負ったチームでした。

ところが、第二走者として走るはずのAさんが、大会当日、高熱のために参加できなくなり、急きょ、Fさんが走ることになったのです。まさかこのような展開になるとは、Fさんはもちろん、学級の誰もが想像していなかったことです。

しかし、あれこれ思い悩む時間もなく、会場に到着するとすぐに、Fさんと二走のスタート地点に向かい、インコースへの入り方を入念に確かめました。

そして、ついに、リレーの時間がやってきました。緊張のあまりFさんの顔はこわばっていました。

「大丈夫。精一杯出しきるだけや。一緒に頑張ろう。」と、背中を叩くと、凛とした表情でFさんは大きく頷きました。

第一走者が良いスタートを切り、先頭に立ちました。その、バトンを受け取ったFさんは、必死に走りましたが、後ろから追い上げてきた選手に次々と抜かれていったのです。そんな状況でも、諦めずに最後まで必死に走りぬき、第三走者にバトンを繋いだのです。第三走者、第四走者も巻き返しましたが、入賞には及びませんでした。

レース後、すぐに三人はFさんのところに駆け寄り

「頑張ったなあ。」

と、称える言葉をかけていました。そんな四人を学級の仲間が大きな拍手と笑顔で迎えたのです。走った四人も、学級のみんなも、とても清々しい表情をしていました。入賞こそできませんでしたが、それ以上に何か尊いものを学級のみんなで共有することができた貴重な時間でした。

これは、子どもたちと紡いできた大切な思い出の一コマですが、何よりも、野木の温かな風土で育った心優しい子どもたちに、私自身が教師として育てていただいた七年間でもあったと、今もしみじみ思うのです。

## 会員からの便り

# 輝き続ける野木

第61回卒（昭和45年）

兼田　清水博之

小学校時代を振り返る。五十年も前のことなのに、様々なことがよみがえる。やんちゃでわんぱくだった私達。保護者参観の日に、教室に来られたお母さんを見て「○○ちゃんの母ちゃん来たで、○○ちゃんの母ちゃんも来たで」と、後ろばかり見て授業に集中せず廊下に立たされたこと。外の手洗い場の蛇口を全開にし、水の掛け合いをして厳しく注意されたこと。等々、叱られたことが数々思い出されます。

担任していただいた永木先生、竹原先生、左近（飯田）先生、筧先生には本当にお手数をおかけしました。

次に思い出すのが、野球に熱中したこと。テレビマンガの「巨人の星」の影響もあり、星飛雄馬のように上手くなりたいと、本田先生や先輩から教えてもらい一生懸命に練習に汗を流しました。指導していただいたおかげで、町の大会で優勝することができました。

さらに、地域の方々から多くの刺激を受けました。地区の体育大会で、長距離や高跳びや幅跳び、砲丸投げ等の陸上競技、消防の操法競技や土嚢運搬リレー等が行われる中で、大人の方の勇ましい姿に、「野木の人（先輩）はすごい。自分もそうなりたい」と憧れの気持ちを強くしたものです。

今思えば、大らかに厳しく指導いただいた先生方、常に子どもの見本となり活躍されていた地域の方々に、「野木意識（野木のプライド）」を学ばせていただいたように思います。

さて、近年の野木小学校の子どもたち。礼儀正しく元気な挨拶、何事にも素直で明るく活動する姿は本当に素晴らしいと感じます。また、地域に発信する「有線放送での挨拶」も爽やかですがすがしさを覚えます。

子どもたちの夢の育む場、地域コミュニティの核としての野木小学校。前庭には、昭和十一年建立の「二宮尊徳像」と野木地区開校百年記念の「大志」の碑があります。時代を経ても変わることのない、志を立て学ぶことの大切さを再認識させられます。また、恵懐公園には郷土の偉人「中川平太夫氏の像」、土地改良記念碑には「深謀遠慮　一気呵成」の文字。その心意気は前にある「夢」の記念碑へと続いています。さらに背後には、我が国、日本のために戦われた英霊の方々の忠魂碑が見守って下さっています。

誇り高き「自然」「歴史」「文化」を有する野木小学校の環境です。今後とも、輝きのある野木の子どもたちのために、自身が学んだ野木への情熱を胸に、支え見守る同窓生であり続けたいと思います。

## 会員からの便り

# 「野木っ子」を育てる

第76回卒（昭和60年）

杉山　髙木雅基

私の野木小学校の思い出は、先生方との出会いと、その授業の数々です。

基本的な生活習慣を優しく教えて下さった田中先生、やんちゃでギャングエイジの私たちを厳しくも温かく指導して下さった福田先生や岡本先生、「ひとり調べ」の授業で勉強の本質を学ばせて下さった橋本先生、教科書不要の斬新な授業が楽しかった高橋先生、授業中の余談が面白かった竹内教頭先生、新築のランチルームに卒業記念の壁画を描かせて下さった松宮校長先生など、どの先生方も、私たちの心身の成長ために、創意工夫を凝らした授業と日々の生活指導を展開して下さいました。

小学校の恩師の先生方のおかげで、野木地区住民の一員としての意識が育まれましたし、私自身も将来は教員となって、子どもの成長の一助となりたいと願うようになったことは、疑いようもない事実です。また、大学卒業後に、野木小学校で教育実習をさせて頂いたことは、今もなお感謝いたしております。結局、私は専門教科が英語ということもあって、小学校の教員にはならなかったのですが、数年前に私立高校を退職して、故郷の杉山に戻って参りました。そして現在も、ご縁があって、教育関係の仕事をさせて頂いております。

仕事がら、毎日のように野木地区の子どもと接していますが、野木の子どもは、本当に「野木っ子らしい」と思うのです。野木の子どもは、変に大人じみていないというか、純粋で、素直で、本当に子どもらしいのです。ある意味、古風で田舎くさいとも考えられるのですが、私は最近、「田舎くさくても結構。子どもは古風に育てて正解。」と、感じるようになってきています。人間には、人と人との繋がりや郷土愛が必要不可欠だからです。

私は昨年、杉山区の区長を

務めさせて頂きました。集落の区長や役員を経験して、野木地区は本当に「人が足りない」という現状を痛感しました。各集落や野木地区の行政・行事などを支えて行くための人手が足りないのです。残念ながら杉山でも、もしこのまま進みますと、今の中学生は二十五歳の時に区長をすることになってしまいます。このように、人手不足や若者の不足は、どこの集落でも同じような実状になってきていると思うのです。

このような状況を踏まえ、野木地区では、小学校、保護者の方、地域の住民が三位一体となって、一人でも多くの「野木っ子」を育てて行く取り組みや工夫が、今後さらに必要になるのではないかと考えています。私自身も今後、野木の子どもや若者が一人でも多く、「野木に生まれて良かったな」、「自分の集落が好きだ」、「将来も野木に住みたい」と感じてくれるような教育の実践と集落での取り組みを模索して参る所存です。

## 会員からの便り

# 一粒の米

第78回卒（昭和62年）
下野木　倉谷正典

野木小学校を卒業して三十年以上の月日が経ち、現在では娘が母校に登校する姿を見送る日々です。

今でも、娘のことや行事等で野木小学校を訪れることがありますが、学校の玄関をくぐる度に、小学生の頃の思い出が蘇り、毎回不思議な感覚を覚えます。

私の小学生時代は野木小学校が大きく様変わりした時期でした。ランチルームが新設され、とても広い校庭も新たにできました。

そんな野木小学校の環境が大きく変化した学校生活で、私が特に印象に残っていることは、五・六年生での学習内容のことです。当時の担任であった高橋正和先生は、越廼村（現在は福井市）から赴任され、福井訛りが特徴的なとても明るくユーモアのある先生でした。

高橋先生の授業は、自らの意見を戦わせて話し合うディベートなど、恐らく当時他の小学校では、あまり実施されていない授業内容だったと思います。

宿題もユニークでした。「一粒の米」と名付けられたその宿題は、先生から課題を与えられるのではなく、自らがその日の課題を考え、毎日渡される「一粒の米」とタイトルだけ書かれた一枚の用紙を埋めるというものでした。

一日、二日であればこの宿題もそう難しくはなかったのかもしれません。ただ、これが毎日続くとなると話は違います。その日の課題を考えるだけでも、小学生の自分にはとても大変な作業でした。毎日ただただ「大変だなぁ。」という思いだけで、書きあげていたような気がします。

一年も経つと「一粒の米」は、膨大な紙の束になり、お米で言えばたくさんの実をつけた稲穂のようになっていました。

その頃は「なんでこんな大変な宿題を出すのだろう。」と先生を責めていましたが、今になって振り返ってみると、毎日書いた「一粒の米」は、自分自身を成長させ、「自ら考え、行動する」という、と

ても大切な力を私につけてくれたように思います。

私は三十歳を超えてから、自分の可能性にチャレンジするため、心機一転、上京し転職しました。東京で約十年の月日を過ごし、その間、多くの人に出会い、多くの経験をし、多くの学びを得ました。この十年で得たものは、私にとってとても貴重な財産となりました。

自分の可能性を信じ、チャレンジする考え方や行動力は、小学生時代に学んだ高橋先生の教えがきっと影響していると思います。

今でも野木小学校に寄せる思いは強いものがあります。今後も卒業生として、後輩の方々の良き指針となるよう、自らも努力とチャレンジを続けていきたいと思います。

## 会員からの便り

# 『思い出を子供たちへ』

第85回卒（平成6年）

玉置　奥本和也

野木小学校を卒業し、早や二十数年経ちました。今回、投稿の依頼を受け、当時の思い出を振り返ることが出来ました。

一番の思い出は、何と言っても少年野球です。あの頃は、四年生になると野球を始めるのが当たり前になっていました。兄も野球をしていたので、何のためらいもなく野球を始めました。

初めて着た練習用のユニフォームで、少し照れながら一生懸命グランドを走り回りました。勉強より野球が何倍も楽しくて、毎日泥だらけになりながら、夢中になって練習をしました。

内野ゴロをしっかり捕球し、一塁へ投げてアウトを取った瞬間の喜びは、学校の授業では決して味わうことが出来ないものでした。

五年生になって、新人戦と言う初めての公式試合に、七番レフトの先発出場をしました。背番号の付いた試合用のユニフォームに袖を通して、いざ出陣です。その結果、ヒットは打てないしエラーはするし、悔しい思いが残ったことを今でも覚えています。

六年生になって、練習試合では勝ったこともありましたが、県大会予選では名田庄に負けてしまい、結局は一度も公式戦で勝てずに、私の少年野球は終わってしまいました。

野球以外でも、運動会や修学旅行、キャンプなど沢山の思い出が浮かんできます。運動会の百メートル走では、女子三人と同じ組で走ってビリになったこともあります。

キャンプファイヤーの時、下手な歌を大きな声で歌ったことや、集落ではお御輿や地蔵盆など数え切れない思い出が残っています。

これら沢山の思い出は、すべて何もかも親や家族のお陰だと、つくづく感謝しています。

少々のことでは怒らない存在感のある父、つまらない事でも怒るけど優しい母、両親が仕事で居ない時に甘やかしてくれた祖父母、ひょうきんな兄にまじめな弟、小学校の時だけでなく今でもこの気持ちは変わりません。

そんな私も、今では二人の子の親としておおい町に住んでいます。私の小学校時代とは違って、オンラインゲームやインターネット環境が整い、今の子供の遊び方が親として今一つ理解できない状況にあります。

今、誰かもわからない人との会話が簡単に出来てしまうインターネットに、息子がとても興味を示しています。それが悪いと言うことではなく、安全に使えるよう導いてあげるのが、親の務めであり難しさでもあると思います。

正直な気持ちとして、自分の子供たちには、外で思い切り友達と遊ぶとか何かのスポ

ーツを習うとか、大きくなった時たくさん思い出が残るようなことをしてほしいと思っています。

野木小学校の前の県道から、グランドで元気に野球をしている子供たちを何度か見かけます。その時は、心の中で頑張れと声援を送っています。

今回の投稿依頼のお陰で、自分の小学校の頃を思い出し、とても懐かしい気持ちになりました。

現在の住まいは野木から少し離れていますが、何か役に立つことがないのかなと思いながら、平穏な毎日を過ごしています。

新成人からの便り

# 皆で一生懸命

第102回卒（平成23年）
下野木　倉谷愛加

私の小学生の時の将来の夢は"料理人になること"でした。

私の学年は、四～六年生までの担任だった豊田先生の影響もあってか、学年ごとに栽培する野菜にとても力を入れるクラスでした。中庭のうさぎ小屋の裏の小さな畑、野木小学校創立百周年の際に建てられたビニールハウスの二ヶ所で私たちは様々な野菜を栽培しました。特に印象に残っているのは、"とうもろこし"と"ひょうたんかぼちゃ"です。

まずは、とうもろこしの栽培です。とうもろこしは栽培が難しいらしく、豊田先生も私たちも今までの野菜の中で一番気にかけたように思います。夏休みの間も水やりや様子を見に来たりしていました。そしていよいよ夏休みのある日、先生に収穫の仕方を学びながらの収穫。ランチルームで大きなゴミ箱を囲み、皆で少しずつ皮を剥き、ひげを取り、湯がいて食べました。難しいと言われていたとうもろこしをいろんな人に心配されながら栽培し、ちゃんとした実も生り、無事収穫し食べることができたことは小学生にしてはとても誇らしいことだと思っています。

次に、ひょうたんかぼちゃと言うと聞き慣れない人もいるのではないでしょうか。その名の通り、ひょうたんの形をしたかぼちゃで、皮が薄く身もやわらかいのが特徴です。見慣れない、聞き慣れない野菜に最初は不安と好奇心で始めた栽培。うさぎ小屋の裏の畑で割り振られた場所は囲いの入り口から入ってすぐの一番端、一番広い場所でした。どんなふうに育つのかとわくわくしながら毎日当番で水やりをし、順調に育ち、遂には囲いを抜け成長したかぼちゃにみんなでとても喜んだ記憶があります。収穫し、バター焼きにして食べた時の感動は今でも忘れません。

私は今、当時の夢を叶え調理の仕事をしています。昔から料理は好きでしたが、調理の仕事に本気で就きたいと思ったのはこの小学生時の真剣に取り組んだ野菜の栽培が影響していると思っています。みんなで一生懸命育て、笑顔で食べた時の達成感、満足感はすごいものでした。食材の大切さを学び、美味しく食べることの充実感を知れたことは、今の仕事に大きく繋がっていると思います。

そして今年、無事成人を迎えることができたのはいつも支えてくれる家族、お世話になった先生方、地域の方々のおかげです。これからも、食材を大切にし、多くの人の美味しい顔が見れるよう、改めて気を引き締め頑張っていきたいと思います。

# 児童作文

## 一年生

### みんなの「あのねちょう」より

ひがしやま　こうせい

きのう、えんそくにいきました。

さいしょにエジプトのはなしをみました。ミイラのはなしでした。こわかったし、まったくいみがわかりませんでした。

つぎに、こどもかぞくかんで、たこづくりをしました。たのしくていいかんじにできました。おひるのおべんとうは、おいしくてぜんぶたべました。そのあと、ボールプールで、みんなでゾンビおにごっこをしました。とってもたのしかったです。

しみず　あおい

わたしのいえには、きんぎょが三びきいましたが、きょう、アヤハディオにいって、らんちゅうを一ぴきかってもらいました。

なまえは、まいこです。どうしてかというと、かおがしろくて、あかいくちべにをつけているようにみえるからです。さいしょは、まいこってなんやろうっておもったけど、おとうさんが、パソコンでまいこをみせてくれたら、きょうかったらんちゅうとにていたから、まいこというなまえにしました。

いま、まいこは、三びきとなかよくなっています。

## 二年生

### 大すきな野木小学校のこと

植野　ようた

ぼくは、大すきな野木小学校のことを二つしょうかいします。

一つ目は、「みんなあそび」のことです。どうしてかというと、みんなとなにかをしてあそべてたのしいからです。

二つ目は、体いく大会のことです。どうしてかというと、赤ぐみと、青ぐみと、黄ぐみでいろいろなきょうぎでたたかってたのしいからです。

ぼくは、こんな野木小学校が大すきです。

河原　けいし

ぼくは、大すきな野木小学校のことを二つしょうかいします。

一つ目は、ジャングルジムのことです。どうしてかというと、のぼると、けしきがいいからです。

二つ目は、体いく大会のことです。どうしてかというと、なん回もれんしゅうして、みんなに見てもらえたからです。

ぼくは、こんな野木小学校が大すきです。

竹村　ふうか

わたしは、大すきな野木小学校のことを二つしょうかいします。

一つ目は、野木のみんなのえがおのことです。どうしてかというと、みんながえがおでいると、わたしもたのしくなるからです。

二つ目は、こうさくのことです。どうしてかというと、いろんなものをつくったり、みんなとつくったりすると、たのしいからです。

わたしは、こんな野木小学校が大すきです。

## 三年生

### がんばったぎおんさい

田中　ひかる

ぼくがすんでいる堤では、毎年七月にぎおんさいというおまつりがあります。

そのおまつりでは、ぼくは太こをたたきます。じん社で太こをたたく時、こわいちゃりが出てきます。なぜこわいかというと、こわいお面をかぶっていてばく竹を鳴らすし、何人もいます。だから子どもはみんなないてしまいます。ぼくもないてしまいました。こわかったけど、太こはまちがえないようにがんばってたたきました。次にたたく広場ではリズムが分からなくなってしまって、まちがえてしまいました。とてもくやしかったです。

次の日のじん社では、なかないようにがんばりました。前の日は、ちゃりがこわくて一回しか太こをたたけなかったけど、二日目は、二回たたくことができました。来年はたくさんたたけるようにしたいです。

きのうリズムをまちがってしまった広場へ行くとちゅう、五年生の子が、「がんばれよ。」と言ってくれたので、今日こそはまちがえないぞと思いました。練習のことを思い出して、しんけんにたたいたら、まちがえないでたたくことができました。

ぶじぎおんさいが終わった時、お母さんが、「上手にたたけたね。よくがんばった。」と言ってくれて、とてもうれしかったです。

練習の時のことを思い出すと、いろいろあったなと思いました。うまくたたけなくてくやしくてないてし

まった時、教えてくれていた大人の人が、たたけるまでしんけんに教えてくれて、うまくたたけるとたくさんほめてくれました。そのおかげで、本番はがんばれました。

来年の練習は、下の学年の子がこまっていたら、教えてあげようと思います。そして、ちゃりが出てきた時は、ぼくがまもってあげようと思います。四年生になるとまた太こがむずかしくなるけど、がんばって練習をしたいと思います。来年のことを考えるとわくわくします。

ぎおんさいは、堤の人がみんなでつくるおまつりなので、とても楽しいです。太この練習をしている時も、本番の時も、いろんな人が声をかけてくれるのがとてもうれしくて、堤の人はやさしい人がいっぱいだなと思えるおまつりでした。

# 四年生

## 楽しかった雲龍丸

四年　東　亮兵

ぼくは、今日初めて雲龍丸に乗りました。ぼくが思っていたより大きかったので、びっくりしました。雲龍丸の中は、教室やトイレやお風呂がありました。船だから、中ではあまり生活ができないと思っていたけど、一日中船で生活ができるようなつくりだったので、びっくりしました。

雲龍丸の一番上に行ったら、海風がピューピューと吹いて、とても気持ちよかったです。海はとてもあざやかな色で、飛び込んで泳ぎたいぐらいでした。もう一回海をよく見ると、クラゲがたくさんいました。赤いクラゲや白いクラゲ、赤ちゃんクラゲなどいっぱいいました。横の方を見ると、たくさんのクラゲが流れるように通りすぎていたので、とてもきれいでした。

船のそうだをする時は、とても不安でした。ぼくのせいで雲龍丸が変なことになったらと心配が頭からはなれませんでした。でも、雲龍丸の人がすごく分かりやすく教えてくれたので、ちょっとトラブルが起きたけど、まあまあ上手にできました。

自由タイムでは、雲龍丸の中をぶらあっとしていたら、健翔さんが船首にいました。あそこだったら海風がすごく当たって気持ちよさそうだと思ったので、船首に行きました。自分の方に向かって風が走ってきているように感じて、気持ちよかったです。

双眼鏡をのぞいた時、ぼくの目がのびたのかと思うぐらいよく見えました。まるで、自分がスパイになってだれかを監視しているみたいで、とても楽しかったです。それに、「こちら異常なし。」と言って、雲龍丸の一員になった気分も味わえたのでよかったです。

今日は、とても楽しかったです。初めて船に乗れたのでうれしかったです。雲龍丸体験は今日で終わるそうなので、もう雲龍丸に乗れなくなるのは残念です。でも、最後に乗ることができてよかったです。

## ワクワクした稲刈り

四年　福田　真治郎

ぼくは、稲刈りをしているおじいちゃんをよく小さいころに見ていました。だから、ぼくもやってみたいなと思っていました。そして、四年生になると「やっと稲刈りができるんだ。」とワクワクしました。

九月七日に、野木っ子農園で稲刈りが行われました。まず一人で十二株の稲を刈り、一束を作っていきました。とても大変だったので、となりの人と協力して束をたくさん作っていきました。友達と協力すると、ちょっとは楽にできました。また、自分の列が終わったら、近くにいた人が手伝いにきてくれたので、とても助かるなと思いました。

次に、五年生に稲の束をわたしました。五年生は、束を稲木に干してくれました。ぼくもしてみたいと思い、やってみました。「半分に分けて干すだけだからかんたんだろう。」と思っていたけど、稲の上のところをクロスするので、力を入れなければなりませんでした。そして、半分に分けて、左の方を後ろにして干さなければなりませんでした。五年生はそんな仕事をたくさんしていて大変だなと思いました。五年生になると、稲もくくらなければならないので、来年はがんばろうと思いました。

四年前からずっとしたかった稲刈りができて、とてもうれしかったです。地域の方や老人会の方も手伝いに来てくださって、とても感しゃしています。来年も稲をかることができるので、ワクワクしています。

## がんばった敬老会

四年　竹村　妃那

十月十四日、野木地区敬老会がありました。

私たち四年生は、三年生といっしょに「クラッピングファンタジー」と「ふるさと」をえんそうしました。「クラッピングファンタジー」では、曲に合わせて手をたたきます。「ふるさと」は三番まであって、むずかしい言葉も出てくるので覚えるのが大変でした。それで、家に帰って言葉

の意味を教えてもらいました。すると、「ふるさと」はずっと昔に作られた歌で、とても有名な曲だということが分かりました。歌詞を覚えるまで何回も練習しました。杉山のしょうかいのところは、杉山のみんなで考えました。「杉山にはすぎもり神社があり、暑い日でもとてもすずしいので大好きです。」としょうかいすることにしました。

いよいよ本番になりました。たくさんの人が見てくれて、とてもきんちょうしました。でも、発表しているうちにきんちょうがなくなって、練習通りできました。杉山のしょうかいのところでは、みんなに杉山のいいところを知ってもらえてよかったです。

わたしの家にはひいおばあちゃんがいます。ひいおばあちゃんは見に来られなかったので、家に帰ってから「ふるさと」を歌ってあげました。ひいおばあちゃんも歌を知っていて、いっしょに歌ってくれました。「上手だね。ありがとう。」と言ってくれ、よろこんでくれてうれしかったです。

敬老会に来られなかった人にも「ふるさと」を聞かせてあげたかったなあと思いました。来年も、たくさんの人に聞いてもらいたいです。

## 五年生

### 私のお父さん

五年　大橋　未來

私の家族は、五人家族です。お父さんは、私が習っているソフトボールに、とても熱心です。いつも、日曜日の練習と火・木曜日の自主練習には来てくれます。だから、ソフトの時はいつもきびしいです。そのおかげで、守備が上手になり、ヒットやホームランを打つことができるようになりました。

家でのお父さんは、やさしいです。私の言うことを聞いてくれるし、試合でホームランを打って活躍したら、食事に連れて行ってくれます。でも、仕事から帰ってきたお父さんは疲れているのか、ごはんを食べ終わると、いびきをかいて寝てしまいます。いびきはうるさいけれど、私たちのために働いてくれているので、そこは私たちが我慢してあげようと思います。

お父さんはしゅみもあります。それは、魚釣りです。なかなか仕事でいけないけれど、ソフトが終わったら、たまにアジ釣りに連れて行ってくれます。たくさん釣れた時は、おさしみやからあげにするので、夜ごはんがごうかになります。お父さんは、魚の味付けも上手です。特にカレイの煮付けが絶品で、私も味付けを習って、お父さんに作ってあげたら、おいしいと言ってくれたのでとてもうれしかったです。

仕事にもソフトにもがんばっているお父さんに、この前、悲しいことがありました。お父さんのお父さん、私のおじいちゃんが亡くなりました。お葬式のとき、お父さんは涙を流して泣いていました。私は、お父さんの泣いたところを初めて見ました。でも、お母さんは見たことがあるそうです。それは、私が生まれた時です。うれしくて泣いていたそうです。お兄ちゃんとお姉ちゃんが生まれた時も泣いていたそうです。それを聞いたときは、うれしかったです。そして、お父さんは優しいんだなと思いました。

八月二十日はお父さんのたん生日です。毎年、ケーキを作ってプレゼントを渡します。今年もお姉ちゃんといっしょに考えて渡す予定です。いつも喜んでくれるので、渡すのが楽しみです。泣いてくれたらもっとうれしいです。

お父さんとソフトをいっしょにできるのもあと一年です。新人戦では、がんばって優勝して全国大会県予選でも優勝してお父さんを喜ばせたいです。そして、今度は私がお父さんを泣かせてみたいと思います。

## 六年生

▼たのしみは　テレビをつけて　甲子園
家族みんなで　盛り上がる時
植野　聖永

▼たのしみは　ふとんに入り　寝る前に
明日のことを　考える時
奥本　翔大

▼たのしみは　アタックを決め　友達と
ハイタッチをし　笑いあう時
清水　悠花

▼たのしみは　いつもよりそう　愛猫の
幸せそうな　顔を見る時
竹村　凌一

▼たのしみは　がんばった後の　ハン
バーグ　お肉の味が　口中に広がる時
辻本　光希

▼たのしみは　授業が終わり　ろう下
出て　ランチルームへ　歩き出す時
寺坂　実莉

▼たのしみは　家に帰って　ピアノ弾き
音色をかなで　弾ききった時
新田　千乃

▼たのしみは　週に一度の　卓球を
台に並んで　ラリーする時
平田　夕奈

▼たのしみは　雪が積もった　次の日に
雪に向かって　ダイブする時
山本　澪奈

# 野木小学校の今年

交通安全教室 4.20

野木小学校周辺

入学式 4.6

野木小学校体育館

新ALT Tiborさん初授業 4.11

野木小学校教室

体育大会 6.10

野木小学校グラウンド

遠足 5.1

野木小学校から若狭歴史博物館へ

ひまわり荘訪問 7.4

小浜市加茂 ひまわり荘

雲龍丸乗船体験 5.25

小浜湾

福井国体オープンウォータースイミング応援 9.12

食見海岸特設競技場

稲刈り 9.7

野木っ子農園

敬老会&ふれ愛in野木 10.14

野木小学校体育館

秋季遠足(3,4,5,6年) 10.12

越前市 パピルス館

秋季遠足(1,2年) 10.12

おおい町 こども家族館

# 6年生の自画像

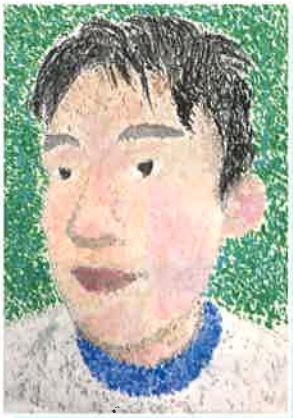
清水悠花

奥本翔太

植野聖永

寺坂実莉

辻本光希


竹村凌一

山本澪奈

平田夕奈

新田千乃

## 編集後記

同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年も母校の様子や同窓会員の近況をお知らせする同窓会誌二十九号が出来上がりましたので、お届けいたします。

今年度は、夏は記録的な猛暑でした。また、初秋には台風が何度も猛威を振るいました。同窓会員の中には、被災された方もおられるかもしれません。心からお見舞い申しあげます。

さて、今年も原稿執筆をお願いいたしました皆様方には、お忙しい中にもかかわらず、快くお引き受けいただきましてありがとうございました。おかげさまで、大変、内容のある会報に仕上がり、心から感謝申し上げます。

会員の皆さまにおかれましては、今後とも、近況などを左記の住所、あるいは下記のアドレスまでお知らせいただければありがたく存じます。また、住所移転等がございましたらお知らせいただけるとありがたく思います。

末筆ながら、会員の皆様の益々のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。

福井県三方上中郡若狭町武生十五―七―一
野木小学校同窓会事務局

■facebook https://www.facebook.com/nogi.elementary
■Eメール nogi-es@edu.town.wakasa.fukui.jp